

# 軽井沢六本辻交差点のラウンドアバウト化による 安全性・円滑性向上に関する研究

平成 26 年 2 月 真島 君騎

## 要旨

### 目的

近年、わが国でラウンドアバウトが注目され、導入が推進されている。しかし、既存の交差点の形状を一新するラウンドアバウトの導入には、地域住民の合意が必要不可欠である。ラウンドアバウトを導入していくために、物理的な安全性を高める等、ハード面の対策も大切だが、住民のラウンドアバウトへの意識を知り、優先的にアプローチすべき人を絞るといったソフト面の対策も大切である。本研究では、ラウンドアバウトの導入による住民の安全性・円滑性への意識の変化を検討した。

### 方法

従来の交差点からラウンドアバウトに改良した直後と、ある程度の時間が経過した時点で、通行者のラウンドアバウトへの意識を比較することで、時間の経過に伴って、通行に慣れることによる住民の安全性・円滑性への意識の変化について分析した。

### 結論

ラウンドアバウトに改良した直後とある程度の時間が経過した時点を比較すると、自動車・二輪車、自転車、徒歩での通行者で、「通行しやすさ」「安全確認のしやすさ」「安全性」について、ポジティブな意識変化をしていることが確認できた。これにより、時間の経過に伴って住民の安全性・円滑性への意識が向上したことがわかる。ラウンドアバウトを導入することで、住民の安全性・円滑性に対する意識が向上したため、軽井沢の六本辻交差点におけるラウンドアバウトの導入は有用であったと言える。今後は、地域住民の意識をより良いものにするため、具体的にどのような人に重点的にアプローチしていく必要があるかについて検討していく必要がある。

指導教員 高瀬 達夫 准教授